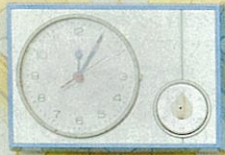


談呆国憂

season 2 VOLUME 26



今月の憂いゴト

首相官邸前のデモ行進から、小沢一郎の新党立ち上げ、消費税率の単体改悪、東ドイツのオスタルギーまで！

呆談の前に、尼崎市にある『プラネット』という東ドイツスタイルのギャラリーに立ち寄った両氏。トラバントのミニカーを手にオスタルギーに浸るも束の間、首相官邸前で繰り広げられているデモに参加した田中氏が、「普通の人々」によるデモの意味を熱く語り始めた。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

田中康夫

浅田彰

再稼働は止められるか？ 永田町カルチエ・ラタン運動

浅田 毎週金曜日の夕方に首相官邸前で行われてる大飯原発再稼働反対デモの参加者が週を追うごとにどんどん増えてるね。田中さんが白い風船を持って歩いてる姿もTVニュースで見たよ。

田中 あのデモは「首都圏反原発連合」といういくつかのグループの集合体が3月に最初は数十人から始めて、ツイッターで呼びかけながら広まり、警察発表でも2万人を超すまでに発展してる。劇画原作者の小池一夫が「昨夜、皇居の前をタクシーで通ったら、たくさんの人々が集まってデモをしていた。海外でよく見るデモのようにギヤァーギヤァーわめかず、静かな行進だった。しかし、僕は、その静かな人の群れから深い怒りを強く感じた。政府はこれ以上国民を侮らないほうがいい。人々は、今、絶望を通り越して、本当に怒っている」というのを射たツイートをつぶやいた6月29日に僕も初めて参加して、そこで白い風船を配ったんだ。

なぜ白い風船かと言うと、1996年にベルギーのブリュッセルで、少女連続誘拐・殺害事件の犯人をすぐに保釈した司法当局の不可解な対応に抗議する30万人の国民が「純白の行進」を行い、ブリュッセルの街路を埋め尽くした。犯人は、国際的なペドフィリア（小児性愛者）組織の頭領格で、会員には政治家、企業家、弁護士、マスコミなどが名前を連ねていた。人々は白い服をまとい、白い花や白い風船を手にしながら黙々と歩き続けたんだ。当時、神戸の被災地で仮設住宅の高齢者支援を行っていた僕は報道写真を見て、いつか日本で

もこうしたムーブメントの生まれる日が来るだろうかと思つたのを覚えている。

今回、いかなる為政者の演説も及ばない偉力を人間は表出できるんだという感銘を受けたよ。画期的なのは、官邸に突撃するとか、抗議文を手渡すといった全学的なイデオロギー闘争ではなくて、参加者のほとんどが普通の市民だということ。会社帰りのネクタイ姿の若者や、出張のついでに参加した地方のサラリーマン、子どもを連れたママや杖をついたおばあさんというように、年齢も職業も異なる普通の市民が、首相官邸前から財務省前まで700メートルあまりの歩道を埋め尽くした。終了時にセーフティ・コーンを路肩に寄せながら「再稼働反対」とつぶやく警察官にも遭遇したよ。

歩道から人々が30メートル幅の道路いっぱい広がって、官邸前交差点をカマボコと呼ばれる機動隊の車両で封鎖した6月29日のデモでは、主催者の中心メンバーでミサオ・レッドウルフの名前でアナスイとかのデザインをしてきた女性が前に出て、「デモは今日だけではありません。来週も再来週も続きます。ここで事故があつたらデモ抗議は終息してしまふから今日は解散しましょう」と、予定終了時刻の20時を待たずに流れ解散になった。参加者たちはその言葉を聞いて大人しく帰っていく。従順な日本人のプラスの面が出ていた。そうしたデモのあり方に、一部の人からは「途中解散なんてヌルい」とか、参加していない人からは「官邸に突撃しないデモなんて意味がない」というツイートもあるみたいだけど、そうじゃないん



だとミサオは言うのね。「一度のデモで問題が解決できるわけではないことはわかってる」「イデオロギーや特殊な屁理屈にコミットしてリアルを失うよりも、現実にとだけコミットしているのが重要だ」と答えている。明治大学前の神田カルチエ・ラタン闘争は「連帯を求めて、孤立を恐れず」とセクシヨナリズムに陥って自爆していったけど、「首都圏反原発連合」が創り上げた永田町カルチエ・ラタン運動は、それとは真逆の「自分を求めて、連帯を恐れず」とでも評すべき非暴力の運動だと感じたよ。議員会館の自室から膨れ上がる群衆を眺め、「大したことない。再稼働しなきゃダメだ」と、周囲の記者に怒鳴った日本社会党出身の仙谷由人にも、おおよそ理解し得ぬ光景だったろうけどね（苦笑）。

浅田 野田佳彦首相に至っては「大きな音だね」だもんね（苦笑）。あれは音じゃなく国民の「声」なのに。サイレント・マジョリテイっていうけど、それがノイジーじゃないかたちで発言し始めたといつてもいい。明らかにマジョリテイは脱原発を志向してる。仙谷は性急な脱原発を「自殺行為」って言ったけど、国民の「声」を無視して再稼働を強行することこそ民主党の「自殺行為」だよ。

田中 徳田虎雄の千葉徳洲会病院長を務め、小児科医でもある社民党の阿部知子が呼び掛けた超党派「原発ゼロの会」が、原子力資料情報室や東洋大学の渡辺満久教授らの提言を元にまとめた「原発危険度ランキング」によれば、危険度1位は大飯原発の1・2号機で、以下10位以内に、美浜原発1・3号機、島根原発1・2号機、高浜原

発1・2・3・4号機、志賀原発1号機が入っている。大飯原発3・4号機は12位。危険度の高いところほど、なし崩し的に再稼働しようとしてるんだから恐ろしい。

浅田 現時点では、原発の危険性に責任を持つべき機関も動き出してないし、そこが新たな安全基準を決めたわけでもない。再稼働した大飯原発の2号機と3号機の間にある断層は活断層だと疑われてたのに、今頃やっと調査に向けて動き出した程度。最低限、原発震災から1年くらいで、新しい原子力規制委員会を立ち上げ、安全基準を作り直して、全国のすべての原発を徹底的に再調査しとくべきだった。他方、長期的な脱原発のシナリオも明示する。その上で、短期的な再稼働の是非を国民に問うならまだしも、原発震災がなかったかのような崩しの再稼働では国民が納得しないのも当然だよ。

7月1日から再生可能エネルギーの買い取り制度が始まった。それを生かすためにも、国が脱原発のために再生可能エネルギーを何年までに何%にするっていう大胆な長期目標を宣言すべきなんだ。中国の例なんかを見ると、国がそういう方向さえ示せば、買い取り制度がなくとも、太陽エネルギーが一気に普及し、コストが急速に下がるといえる。電力会社だって別に悪者じゃないんで、いつまでも原発にこだわらず、再生可能エネルギーでどんどん儲けるようにすればいいんだ。

田中 3・11から1年5か月も経つのに、ハコモノ至上主義だった日本が、津波の防潮堤もオフサイトセンターも造らずに再稼働とは笑止千万。ちなみに、大飯原発3号機が稼働を再開した7月1日は、暑い夏場で気が緩むからと1960年に閣議決定し

た「国民安全の日」だ。そんな日に再稼働して、政府もなかなかブラックだよ（苦笑）。

田中氏が反対票を投じた「消費税率の単体改悪」

浅田 消費増税法案に反対した小沢一郎が民主党を離党して、新党「国民の生活が第一」を立ち上げたけど、どうなんだろう。たしかに野田政権が民主党のマニフェストを無視し自民党の要求を丸呑みして消費増税に突っ走る姿は異様だし、小沢の批判は正しい。でも、小沢新党に国民が期待してるとはとて言えないんじゃないかな。

若き小沢一郎の師だった田中角栄には、戦後の復興を加速し、かつ「国土の均衡ある発展」を題目として、取り残された日本海側にカネを持っていくという、「日本列島改造論」のヴィジョンがあった。その土建国家の招いた政治腐敗を改革するってのはいいし、現に自民党長期政権を打倒した実力は認めるけれど、小沢にはそれに代わってどういう国をつくるかっていうヴィジョンがない。何より、政権交代後、細川護熙を首相にしておきながら使い捨てたように、キングメーカーとして長期的に君臨する忍耐力がない。「壊し屋」と言われるのも仕方がないね。

田中 小沢と現在の民主党幹部の「OS」があまりにも違いすぎて、話し合っても解決できるレベルではなかったんだと思う。小沢を追い出した野田は民自公の実質的な大連立を組んで、自民党も公明党も自分たちの支持者に「夢」を与えられる来年度予算を編成してから選挙という思惑だろう。おそらく1月の通常国会冒頭解散。早くて12月、二百歩譲って、新しい公共事業のあ

り方、崩壊した年金に代わる新しい社会保障のあり方を「理念なき翼賛」で構築するならまだしも、公共も福祉も目先の欲心を買うカンフル剤のバラマキから抜け出していないから頭が痛い。社会保障制度の抜本改革を口にするのなら、今後20年で日本の人口は約1700万人、労働人口は約1100万人も減少するのに、年金や生活保護を抜本的に組み立て直す新しいプランは示されないまま。

浅田 民自公のあいまいな大連立は利権で野合してただけだからね。

田中 理念という問題では、佐藤優が大阪市長の橋下徹は1950年代にアメリカでマッカーシズムを巻き起こしたジョゼフ・マッカーシーだと指摘していた。佐藤が言うには、マッカーシーは理念や信念で反共を唱えたのではなく、反共産主義的な社会の空気に便乗して、必ずしも共産主義者ではない進歩的なハリウッドの関係者や政治家、軍人をスケープゴート的に魔女狩りして、脅威を感じた一般国民が沈黙していっ

田中康夫

たなか・やすお●1956年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。大学在学中に「なんとなく、クリスタル」で文藝賞受賞。長野県知事、参議院議員を経て、現在、衆議院議員・新党日本代表。



たと。

浅田 マッカーシーの「赤狩り」が「組合狩り」になっただけか。確かに、ナシヨナリズムゆえに「君が代」を歌わない教師を批判するっていうより、「俺の命令に従わない部下は許さない」って感じだろうね。

ともかく、橋下の「維新の会」のみならず、河村たかしの「減税日本」にせよ、渡辺喜美の「みんなの党」にせよ、いろいろな動きはあるものの、第三極にまとまりそうもない。

田中 社会保障と税の一体改革とは名ばかりで、「消費税率の単体改悪」にしかなくてないから、僕は、社会保障と税の一体改革関連法案のすべてに反対票を投じた。前から言ってるように、株式会社7割、連結決算を導入する超大企業の66%が国税

の法人税と地方税の法人事業税を1円も納付していない不条理を改善するには、利益に対する現行の課税から、事業規模や活動量を基準に課税する外形標準課税へと抜本的に刷新すべきであって、そうした本質的

消費税率10%でも足りないと言言する御仁は、日本の制度運用に問題があるかと分かってるのかな(苦笑)。(田中)

オスプレイとトラバント。始末が悪いのはどっち？

浅田 今日田中さんと一緒に尼崎で東ドイツの雑貨を販売する『プラネット』って店に行ったけど、旧東独で走ってたトラバントのミニカーなんか置いてあって、なかなかユニークだった。いわゆる「オスタルギー(東欧へのノスタルジー)」に駆られたマニアが来るのかな。

店の棚に『グッバイ、レーニン！』(W・ベッカー監督)のDVDが並んでたけど、あの映画はなかなか面白い。旧東独の首都・東ベルリンの母子家庭の話で、父が西独に亡命したあと、母は意地になって東独政府を支持しながら息子を育てるんだけど、息子は自由を求めて1989年の反体制デモに参加、その姿を見た母は心臓発作で倒れ、昏睡状態に陥ってしまう。その間にベ



ルリンの壁が崩壊して東独がなくなっちゃうんだけど、意識を取り戻した母親にショックを与えないよう、息子は嘘のニュースをつくって見せたりして、東独が存続してふりをし続けるというストーリー。

本来、統一ドイツをつくるなら新しい憲法を制定すべきだったのが、実際には西独基本法の条項に従って東独を「編入」するかたちになっちゃった。しかも、性急に市場原理主義を導入したため東独経済が崩壊し、大混乱になった。その中で、「昔は不自由だったが今よりはよかった」というオスタルギーが生じたわけ。ロシアもまったく同じで、ソ連崩壊後、ボリス・エリツィン大統領が一気に市場原理主義を導入して経済が混乱に陥り、昔の秩序のほうがまだましだったことでウラジーミル・プーチン大統領の強権政治がいまだに支持されている。『グッバイ、レーニン！』は、社会主義圏崩壊後のそういう微妙な心理を、なかなかうまく表していると思うよ。

田中 へえ、面白そう。アメリカ資本のアマゾンでDVDを買って観ようかな(笑)。
浅田 もちろん旧社会主義圏がよかったわけじゃない。ただ、一気に市場原理主義を導入したため混乱が生じ、その反動で強権支配が支持されたりするわけだ。

振り返ってみれば、第一次世界大戦のあと、ケインズらの警告にもかかわらず、敗戦国ドイツに過大な賠償を求めたため、ドイツが経済危機で不安定化したあげくファシズム化した。その教訓を踏まえ、ケインズの教えを生かして、第二次世界大戦後にはアメリカがマーシャル・プランのような形で旧敵国も含めたヨーロッパに膨大な援助を行った——むろん日本に対しても。本当は、冷戦が終わったときもそうすべきだ

オスプレイってのは猛禽類の「ミサゴ」のこと。あんな動きを飛行機で真似ようなんて土台無理だよ。完全に名前負け。(浅田)



つたし、いまだってドイツは南欧諸国に反省を求める前に積極的に援助すべきなんだよ。しかし、歴史の皮肉で、ケインズの教えはまたしても忘れられちゃったわけ。

田中 中国の薄熙來の運動に乗ったのもそういう「オスタルギー」な人たち。生産圏の市民からしてみれば、自由よりも先に生活を保障してくれてることなのかな。
浅田 まさにその通り。社会主義時代は不自由だったけれど、いまのような不平等はなく、失業して食い詰めることはなかった。

他方、市場原理主義っていうけれど、アメリカでさえそれが貫徹されてるわけじゃない。たとえば、軍産複合体が軍需をほぼ独占してるから、競争による効率化が働かず、兵器が無意味に複雑で高価なものになる「バロック化」(M・A・カルドー)が起こっちゃう。前回言ったように、米軍の垂直離着陸機オスプレイなんて、まさにその典型。あまりに高価なんで、国防長官当時のディック・チェイニーでさえ導入に反対

浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学大学院長。83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラー。



してたくらい。実際、危険すぎて本当は使物にならないんだから。

田中 日米同盟が何よりも大事と考えている親米ボチは、オスプレイが日本で事故を起こしたら日米関係への国民の信頼は計り知れない破綻状態になることを覚悟しなくちゃいけないのに。原発賛成派が大飯原発を再稼働させて原発産業の未来をますます困難なものにしているのと同じ構図。日米同盟が基軸だという親米派であればなおのこと、親友であるアメリカのやり方を正す姿勢が必要なんじゃないか。開発計画が延長されたF35(ステルス戦闘機)にしても、イギリス、オーストラリア、イタリアは調達計画の延期や見直しを決定しているのに、野田政権は契約に踏み切った。お金だけ払って、機体はアメリカに留め置いているわけでしょ? そこまで屈辱的な買い物はないよね(苦笑)。

浅田 F35は定価さえなくて、知らぬ間に1機100億円を超えている。民間でそんな話を通ると思う?

防衛相の森本敏も内心は忸怩たる思いじゃないかな。オスプレイの配備について「地元を説得できると思いますか?」って記者に問われて、「I'm not confident(自信がない)」って何度も答えてたけど、あれは遠回しにアメリカに聞いてほしいんだらうね。それなら面と向かって言うべきだよ。ちなみに、オスプレイってのは猛禽類の「ミサゴ」のこと。水中に勢いよく飛び込み、魚を仕留めてすぐに飛び上がる鳥なんだけど、あんな動きを飛行機で真似ようなんて土台無理だよ。完全に名前負け。素人がTVで見ても、「こりや、ヤバイだろう」って思うような覚束ない動きで飛んでるもん(苦笑)。

田中 まったく。走らないトラバントよりも始末が悪いよ(苦笑)。なのに、「配備自体は米政府の方針で、どうしろ、こうしろという話ではない」と語る野田って、一体、お前はどこの首相だよ。日本のドッグショーを親に来たアメリカの夫婦が「アメリカの犬はどこにいるの?」と係員に尋ねたら、首相官邸に案内された、というジョークが流行るのも当然だね。

その人物が都の西北バカ田大学(爆)の隣にある母校の大隈講堂で「自分があきらめないかぎり失敗はない。成功の要諦は成功するまで続けることにある。粘り強い心を持ちながら一つ一つヤマを乗り越えていきたい。失敗の最大の要因は自分があきらめる時だ」と演説する映像を観て、戦慄が走ったよ。

登山家と為政者は違うと理解していない。しかも応援団がエールを送って、学長と一緒に校歌を高歌放吟する映像がニュースで垂れ流されるんだから、平成の大政翼賛も極まれりでしょ(苦笑)。